



『shining ほいく』は研修の振り返りと実践への活用を目指し発行する機関紙です。研修受講後に保育の質の向上に向け学んだ内容を実践に繋げていく中で『shining ほいく』を活用していただけたら幸いです。

～「shining ほいく」お役立ちポイント～

- ① 「この間の研修どんな研修だった？」と話すときに『参考になる。』
- ② 他園で研修をどのように活用しているか知りたい時に『ためになる。』
- ③ 保育を見直したい時になるほど！と『気づきがある。』



～保育園の病気とケガ対応～

講師 都立大塚病院小児科医 入間田 健 氏

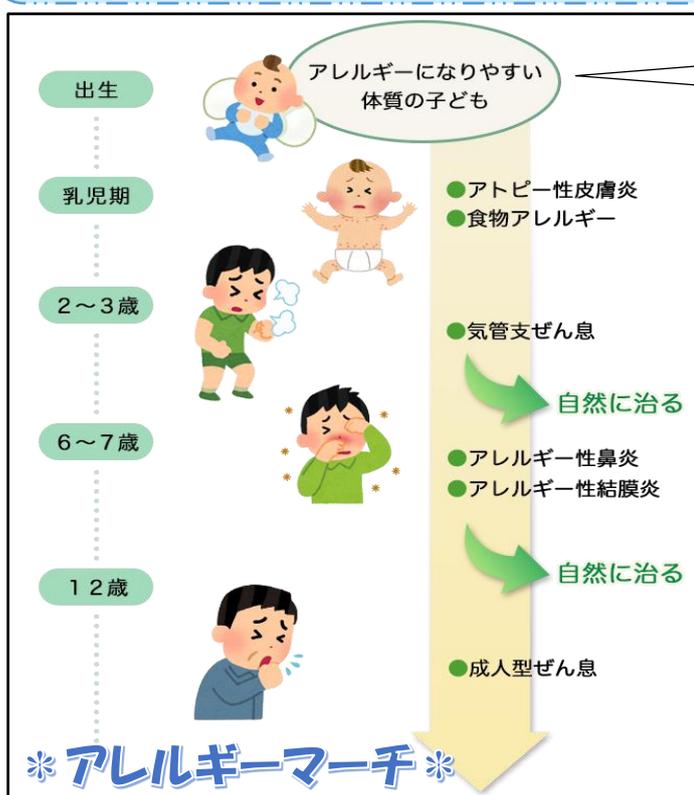
※保育園の病気とケガ対応（基礎編）※
乳幼児に多い病気（喘息、熱性けいれん、皮膚のトラブルなど）やケガ情報と対応を学ぶ

* アレルギーとは???*

本来なら反応しなくてよい**無害なもの**に対し、**過剰な免疫反応**（体を外敵から守る働き）が起こってしまうこと

* 保護者のアレルギーに関する希望 *

保育施設・幼稚園等への希望	アレルギー疾患に関する職員の理解と知識の向上 (46.6%)
行政（都や区市町村）への希望	住民へのアレルギー疾患に関する知識や情報の提供 (42.9%)
医療機関への希望	薬や治療法などの十分な説明と相談対応 (57.9%)



親や兄姉に、アレルギー疾患がある場合は…



生まれた時から、ある程度はアレルギーになりやすさを予想しています。

アレルギーマーチとは…

・アレルギー反応が年齢と共に変化していく現象のことです。
幼児期は食物アレルギー、アトピー性皮膚炎
空気中のアレルゲンに対する気管支喘息など…。



* 食物アレルギーとアナフィラキシー *

アナフィラキシーとは…複数の臓器に症状が出てかつ生命の危機につながる状態
 アナフィラキシーショック⇒**血圧低下、意識障害、呼吸困難**



* 病院外でのアナフィラキシーへの対応 *

1. エピペン®を使う
2. 安静にして、観察する
3. 救急車を呼んで、病院へ行く

安静を保つ体位

ぐったり、意識もうろうの場合



血圧が低下している可能性があるため仰向けで足を15~30cm高くする

吐き気、おう吐がある場合



おう吐物による窒息を防ぐため、体と顔を横に向ける

呼吸が苦しく仰向けになれない場合



呼吸を楽にするため、上半身を起こし後ろに寄りかからせる

エピペンが処方されている患者でアナフィラキシーショックを疑う場合、
下記の症状が一つでもあれば使用すべきである。

消化器の症状	・繰り返し吐き続ける	・持続する強い(がまんできない)おなかの痛み
呼吸器の症状	・のどや胸が締め付けられる ・持続する強い咳込み	・声がかすれる ・ゼーゼーする呼吸 ・犬が吠えるような咳 ・息がしにくい
全身の症状	・唇や爪が青白い ・意識がもうろうとしている	・脈を触れにくい・不規則 ・ぐったりしている ・尿や便を漏らす

①「いつ打ったらいいの？」 → 症状の表をエピペンと一緒にしておく

*** **迷ったら打つ!** ***

②「ちゃんと打てるかな？」 → 何度も練習しよう!



《研修資料参考》

まとめ…アレルギーを正しく知り皆で協力し合う
 アナフィラキシー、喘息、痙攣、はち刺傷などを目の前にしたら焦るので
子どものそばをはなれずようすをしっかりとみる!

受講して学んだ事感じた事



- ・正しい情報を知っておくことで園児に症状が出た時にどう対処するのか、また保護者への伝え方も変わってくると改めて感じた。
- ・**エピペンの使い方を知識だけではなく実際に体験**してみることができたことで使うことができる。
- ・乳幼児期に一度アレルギーになり、完治しないとまた形を変えてアレルギーとして発症しやすい“**アレルギーマーチ**”というものがあることを知った。また幼少期からの丁寧なアプローチが必要である。



- アレルギーマーチの存在を知らなかったり、アレルギーや虫刺され等のケアについて悩んでいる保護者に発信していく
- 講義で伺った疾患はどれも保育園で身近なものである。場面に遭遇した時、基本的な内容が頭に入っている上で調べ、より良い対応ができるように曖昧な根拠での対応ではなく自信を持って対応できるようになりたい。

- 乳幼児に多い病気（ぜんそく、熱性けいれん、肌のトラブル）やケガについての知識、対応のしかたを具体的に学ぶことができた。

肌トラブルの対応、薬の使い方など保護者に情報提供できる内容であった。

いざという時に慌てずに対応できるためのエピペンの使い方の実践練習や新型コロナウイルスに関する現在の状況、今年の感染症情報などタイムリーな情報を知ることができた。

※保育園に多い病気とケガ対応(発展編)

乳幼児に多い病気(アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、喘息、便秘など)を学ぶ

色々な食物アレルギーがあります

新生児・乳児消化管アレルギー	新生児から乳児の前半は牛乳 乳児後半大豆や小麦は卵（卵黄）などが原因です。 嘔吐、下痢、血便、体重増加不良など症状ですが 蕁麻疹などの皮膚症状はでません。
口腔アレルギー症候群	生の果物によるアレルギーです。 食べた直後からの口内の痒み、口唇の腫れ、のどのイガイガ が出ますが症状は自然に治まることが多いです。
食物依存運動誘発アナフィラキシー	食物（小麦、甲殻類、果物や野菜）+2時間以内で運動を することで発症するアレルギーです。 学童期以降～成人の発症が多いです。

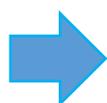
アレルギーにならないために保護者が考えること

妊娠中や授乳中にお母さんが卵を食べないようにする



お母さんが卵を摂取しなくても卵アレルギーになる場合がある

離乳食の開始時期を遅らせる。



食物アレルギー発症を心配して離乳食開始を遅らせることは推奨されない

便秘とは？

- ・週に2回以下の排便
- ・毎日出ている、残便感がある
- ・便意はあるが、硬くて出ない

ウンチを我慢する悪習慣



便が出ないように我慢している姿

<研修資料参考>

「便秘と食べ物のウソ、ホント」

- ×生野菜：水溶性食物繊維
 - 海草、豆類、キノコ、穀類、果物：不水溶性食物繊維
 - ×牛乳：1日コップ1杯でじゅうぶん
 - △ヨーグルト：効果ありそうなら続けてもという程度
 - ×おやつ：脂肪が多いものは特にダメ
 - ×水分：多く摂っても便の回数や硬さに変化なし

 - ×朝食抜き：排便回数の低下と関係する
- ※何を食べるか、より、バランス良く食べているかが大事

研修で学んだ事・感じた事・活用法



- ・食物アレルギーになりやすくする為には離乳食の適切な時期での開始とアレルギーになりやすい食品でも、食べられる量を食べ続けることが大切である。
- ・エピペン躊躇せず早く打つのが大事。
- ・基本編と発展編を続きで受けたことで、アレルギーの詳しい情報が保護者にも提供できる。
- ・保育園の保健管理に活かせる内容だったので、看護師とも共有し必要な情報を保護者に提供してほしい。

～包括的セクシュアリティ教育～

講師 きりんほけんしつ・保健師

花田 満乃 先生

“大人が知りたい子どものための性のおはなし”

・就学前からの性教育が、なぜ必要か?!
→これまでとは内容が変わってきているからです



*包括的セクシュアリティ教育 = 「すべてをひっくるめて」という意味がある



『人権重視の性教育』

包括的セクシュアリティ教育を受けて育つと

→自分の幸せのため、大切な人の幸せのために、性の知識を選んで使うことができ、**性が生きる力、自己肯定感、活力につながる。**

*子ども達に教えるポイントは3つ

- ①からだの名前: プライベートゾーンの大切さ
- ②性器のあつかいかた: トイレの後の拭き方、洗い方、痛いときの対処
- ③子どもが性器をさわるとき: 触っていても叱らない

<研修資料参考>

『ジェンダーの話』

大切なのは「その子(人)らしさ」です
「自他ともに尊重ができる人間らしさ」

研修で学んだ事・感じた事・活用法



- ・性に対してマイナスイメージを持たないようにそれが将来の性暴力抑制に繋がるので、正しい知識を伝える重要性の意識を持った
- ・ジェンダーを意識した人権重視の性教育に変わっているので、ひとりひとりを、大切にすることや考え方、見方を変えていく必要がある事を感じた。
- ・ジェンダーについて女の子・男の子としてではなく、個人として尊重していく事を職員間で共有していきたい。
- ・子どもの性教育を科学的知識として考える機会となった。職員同士で共有と対策を考えていきたいと思う。